

## 門川町立西門川中学校の学力向上への取組

### 1 平成 17 年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

#### (1) 学力調査結果からの課題

##### ① 平成 17 年度学力調査の結果 ※( )内は 18 年度

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	計
自校の平均点	74.9(86.9)	65.2(70.5)	71.6(81.1)	66.7(75.6)	74.6(88.5)	353.0(402.6)
管内の平均点	77.4	57.2	63.4	63.2	72.2	333.4
県の平均点	80.6(79.2)	60.6(63.2)	67.8(68.6)	66.5(66.3)	75.7(74.3)	351.2(351.6)
来年度の目標 (平均点)	77.0(87.0)	62.0(75.0)	72.0(85.0)	70.0(75.0)	76.0(85.0)	357.0(407.0)

##### ② 平成 17 年度学力調査の結果からの課題

- ・ 国語の平均到達度が他教科に比べてかなり低い。「話す力・聞く力」以外の分野はすべて県平均を下回っている。
- ・ 理科における自然事象についての知識・理解が県平均に比べやや低い。

#### (2) 意識調査結果からの課題

- ・ 生きる力は全項目とも県平均を上回っているが、学びに向かう力の中の感じ取る力と学習動機が特に低い。
- ・ 豊かな基礎体験の中では、本や新聞を読む生徒が非常に少ないことと、家庭学習のみで学力の向上を図っていることが分かった。

### 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

#### (1) 学力向上に向けた経営方針

- ① 指導方法の工夫・改善
- ② 学習環境の整備
- ③ 各種検定と作品展への応募の推進
- ④ 図書室の整備と読書活動の推進
- ⑤ 家庭と連携した宅習指導の充実

#### (2) 教育課程内の取組

- ① 時間割の柔軟な入れ替えで自習をなくす。
- ② 国語、数学、英語は、TT で授業を行い、個別指導を充実する。  
(8割以上の生徒が、TTの方が分かると言っている)
- ③ 数学と英語に重点を置いた選択教科の開設。

#### (3) 教育課程外の取組

- ① 朝自習の読書活動で国語力の向上を目指す。(1・2年生)  
(読書週間、多読賞などを設けた)
- ② 朝の学習で入試に向けた、学力の定着を目指す。(3年生)
- ③ 帰りの会の「スキルトレーニング」で基礎学力の定着を目指す。(1・2・3年生)
- ④ 漢字検定、数学検定、英語検定の積極的に受検を進める指導を行う。
- ⑤ 3年生は、夏季休業中に10日間(2時間ずつ)補習を実施した。
- ⑥ 1・2年生は、夏季休業中の部活動の前に毎日1時間教室で自学自習をした。
- ⑦ 各学期のはじめに「家庭学習のてびき」「家庭学習の3つのポイント」を用いて、家庭学習の仕方についての指導を行う。

#### (4) 保護者・家庭、地域との連携

##### 家庭学習の3つのポイント

##### 子供を伸ばすために（家庭掲示用）

#### ① 家庭学習の充実のために

年度当初の参観日に「子どもを伸ばすために」（家庭掲示用）と「家庭学習の3つの約束」というプリントを配付し、学級懇談において説明し、基本的な事柄について家庭での協力を依頼した。

1. 決まった時間に  
(早く取りかかる)
2. 決まった場所で  
(勉強机に向かって)
3. 集中して  
(テレビ・音楽などは消して)

1. 常に家族の会話をもちましよう。
2. 朝ご飯をしっかり食べさせましよう。
3. 規則正しい生活をさせましよう。
4. 勉強している時はテレビの音量を下げても集中できる環境をつくりましよう。
5. 家の手伝いや仕事をさせましよう。
6. 本に親しむ雰囲気をつくりましよう。

※ 忘れ物を無くすために、準備は寝る前に！

#### ② 情報の発信

「学級通信」や「学校だより」で、家庭や地域に学校での生徒の様子や学校行事や部活動の成績、各種表彰などの情報を積極的に発信している。

#### ③ 地域の皆さんとの意見交換の機会の設定

昨年度から各学期一回、学校とPTA、地域の各組織の代表者の方々と地域の教育について話し合う「西門川の教育を語る会」という会を開催している。

学校からの児童・生徒についての報告や説明、地域の皆さんからの質問や意見、そして協議をしていくことによって地域を巻き込んだ有意義な会となっている。



#### ④ 読書活動の推進「23が60(にさんがろくまる)運動」

小中連携の取組の中で、読書活動を推進するために「23が60(にさんがろくまる)運動」を毎月実施している。

### 3 成果と課題(今後の取組を含む)

#### 《成果》

- 年間を通じ、5教科の基礎・基本の定着をめざして「スキルトレーニング」を実施した。学級担任、副担任が個別指導を行うことにより、まとめのテストで8割程度の生徒が1回で合格することができた。
- 朝の読書の時間に読んだ本のページをカードに記入したり、読み終えた本の題名を掲示したりすることによって、本に関する話題が増え、読書意欲の喚起に結びついてきた。「1か月3冊以上読書をする」という目標は、3分の1の生徒が達成できている。漢字検定は50%受検を目指していたが、40%にとどまった。
- 英語検定の資格取得率も80%に達している。
- 授業についていけない生徒にT2の教師が援助する形を取って指導した。その結果、ほとんどの生徒が「TTで授業内容がわかるようになった」と答えていた。
- 若干であるが家庭学習の時間が増加した。しかし、全体的にまだまだ家庭学習の時間が少ないといえる。

#### 《課題》

- 学力向上を目指していろいろな取組をすることにより、一定の成果が見られたといえる。今後も、学力向上を図るために、授業内容の充実と家庭学習の習慣化の充実が必要である。地域、家庭(保護者)と一体となった継続的な取組を推進しなければならない。
- すべての教科において学力向上の基礎となるべき、「読解力」「理解力」等の向上については、読書の習慣を身に付けさせる指導が不可欠であるので、小中連携の一環としても更に取り組んでいく必要がある。